２月の日程　25 春闘スタート

空の安全も社員の生活も大きな課題

J-WING
日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 267(16−05)
2025 年 1 月 30 日

Tel:03-5756-8690　URL http://www.jlu.co.jp　e-mail honbu@jlu.co.jp

日付	２月の取り組み
1	
2	
3	フェニックスビラ7:30～8:30　　PM 中央執行委員会
4	16-03 中央委員会 Zoom 13:00～17:00
5	
6	
7	
8	政策セミナー Zoom 開催 13:00～18:00
9	
10	
11	
12	PM 中央執行委員会
13	
14	
15	

ストライキ権投票 2／20まで　早めに投票を

日付	２月の取り組み
16	
17	
18	PM 中央執行委員会
19	航空連「春闘学習会」Zoom 開催 18:00～19:00
20	PM 中央執行委員会
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	

投票 2／20まで

争議権投票の期間が年末より短めです。投票率の維持にご協力を

25 春闘でもST 改善を目指す

2023 年度に新制度が始まり、当初よりは少しずつですが改善してきた国内線 ST 制度。それでもまだ不足があるため、以下を要求し協議します。

ST 制度に関する要求

① 国内線 ST00/90 において、空席待ちを可能とすること。
② 国内線 ST00/90 の予約可能時間を 24 時間前とすること。また、有償でのクラス J の予約発券を認めること
③ 単身赴任者が安心して帰宅できるように帰宅旅費制度の改善を行うこと。
④ 国内線の点数について ST00 を 48 点、ST90 を無制限で支給すること。また、一部を一般旅客と同枠での事前予約を可能とすること。
⑤ 国内線乗継便の合計使用点数を 2 点とすること。
⑥ 適用範囲を 2 親等まで広げ、子供の搭乗資格年齢制限をなくすこと。
⑦ 介護による国内線特認を ST00 とすること。
⑧ ファミリークーポンの運賃を 8 割引にすること。また、支給点数を 40 点とすること

①は空港での空席待ちに関する要求です。新制度では ST での空席待ちができません。30 分前に空席が出ても、予約・発券して保安検査場を通過し、ゲートに行くのは困難です。お客様向けの空席待ちシステムが全て WEB で完結できるようになれば、ST にも適用するということです。当日の遅い便の予約が取れていることが前提の前便空席待ちになりますが、ないよりはましでしょう。早期実現を求めています。

③の要求は、これまで「別居特任 ST の見直し」を求めていましたが、「帰宅旅費制度の改善」に変更しました。別居特任 ST（予約可）の予約枠も問題ですし、せっかく予約しても降ろされる、または空いている便に変更させられるなど、課税対象の航空券にもかかわらず普通の ST と同じ扱いです。会社が「別居状態」としている人も単身赴任であることに変わりはないので、そうした方々の要望も団交で伝えていきます。



⑥と⑧は同じような要求です。ファミリークーポンは 2 親等まで使えますし、子の年齢制限もありません。今は割引率が 50%なので使う人は限定されていますが、80%になれば、喜んで使う人もいるでしょう。

他にも ST で訴えたいことがあれば組合本部まで。

民間航空は平和産業 世界から紛争がなくなればいいのに



CSZ 説明会が開催されました

1 月 20 日、部品サービスセンター(CSZ)の上期説明会があり、部品の品質や供給状況などを確認してきました。

組合 機材指標に Q/Low 発生率の RJ 機が昨年に引き続き悪い。ハイサイクルと経年劣化の問題なのは理解しているが、改善策は？

会社 契約の切り替えや、修理先を自社整備に出来るように進めていきたい。ERJ も Pool & Exchange Program になっていて、我々の思いがなかなか伝わらないので、単体で委託することで修理 TAT を短くし、我々がやりたいリハビッシュ、子部品を交換するような取り組みをしている。

組合 部品不足の理由に「サプライチェーンの乱れ」があると思うけれど、この混乱はいつまで続くのか、解消する要素は何かあるのか？

会社 コロナで人が辞めて、新しく入ってきた人の教育、訓練をやりながら生産できるようにしているが、生産能力はまだ低い。さらに拍車をかけているのは世界的な紛争。そちら側に部品が取られている。航空用に使われるものとミサイルに使われているものが同じだったりする。そういうものはミリタリー側が優先される。また、紛争でマテリアル、金属材料が入手しにくいとかの影響もある。それが原因で AOG させている会社は結構ある。紛争の影響がいつまで続くかは不透明。トランプに期待するしかないというのが現実のところ。民間のなかでの優先順位は、AOG しているところに先に供給するようになっている。

こう正直に説明されると、現在の流用だらけの生産体制も致し方ないと感じます。CSZ は、この状況でも必死に部品をかき集めて日々の運航を維持しようとしていますが、安全を守るため、まともな供給体制が整うまで一旦立ち止まり、休便・減便も考えるべきでしょう。経営判断に期待します。

【J-WING267（16-05）号 2025,01,30】